

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	年	月	日
事業所名				
ユニット名				
事業所番号				
記入者名	職名		氏名	
連絡先電話番号				

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に沿って取り組んでいる ・介護サービスを通じ、利用者様に質の高いサービスを提供します。(法人理念) ・グループホームの理念と法人理念が別々に設定されている。 ・理念は「ゆったり自由に笑って過ごせるように」とグループホーム独自の理念を作っている。 	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は「ゆったり自由に笑って過ごせるように」とグループホーム独自の理念を作っている。理念はリビングの出入りに掲示してあり、目に付きやすいようにしてある。 ・「ゆったり自由に笑って過ごせるように」が理念であり、笑いを多く一人ひとりのペースを大切にゆっくり慌てず、利用者様の生活の向上に努めています。 ・相手の立場に立った介護 	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングに理念を見やすい場所に掲示している ・三ヶ月に一度で家族に来ていただき、家族会を行っています。その中で現在の利用者様の様子等話し合いケアプランについてもご相談します。 ・家族会を行っている。 ・リビングの出入りに掲示してあり、目に付きやすいようにしてある。 ・運営推進会議を通して理解を求めている。 	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接しているスーパーへ毎日出掛けるようにして、近くに施設があること・利用者様の顔・様子を知ってもらうようにしている。 ・商業地の中にあるため近所がない ・常にどなたが見えても笑顔で接する。 ・家族会や運営推進会議など近隣の方も参加していただいている。 	<p>児童（小学生や保育園児など）が見学、慰労など</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を開催している。 ・交流が行えていない ・地域のボランティアグループを招きハーモニカ演奏をしていただき、交流の機会を設けている。 		ボランティア活動している団体、個人の情報を得てもっと積極的に活用する。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を受け改善すべきところは、改善実行している ・家族会などを催して、意見を取りいれている。 ・指摘された点は、職員・管理者交え話し合い改善に取り組んでいる。 ・求められているケアは何か？ 自分の行っているケアはどうか？ 振り返る機会がもたれている。 		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3ヶ月ごとに行っている。 ・運営推進会議を2ヶ月に一度開催している 		会議を重ね、施設の理念・運営活動を理解していただき、家族・地域・職員・交流を深めていく
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村担当者が、定期的に訪問している。 ・意見交換がもてるように心がけている。 		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない 		地域権利擁護事業、成年後見人制度について学ぶ機会を設ける

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人として行っている。 ・管理者から虐待の防止について行ってはいけないことの指示がある。 		虐待防止法について学ぶ機会を設ける
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・書面を準備し口頭にて説明し、理解納得を得ている。 		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人、ご家族からの希望・要望は出来る範囲で対応している。 ・利用者様、ご家族の意見・不満・苦情に対して、家族会、面会時など対応している。現場で対応・改善できることは職員間話し合いをし運営に反映させている。 		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理は、毎月家族に報告し、確認してもらっている。定期的に行う家族会、面会時に日々の暮らし健康状態をお知らせしている。 ・家族会の開催、毎月のお知らせの配布、健康状態の特変時の連絡を取っている。 ・健康状態、金銭管理は、早めに連絡をする。 ・日常の暮らしぶり等は、面会に見えたときに連絡させてもらう 		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会・面会時に意見交換している運営の改善、ケアプランに取り入れている。 ・面会に来たときに利用者様の様子などを伝えている。 ・職員は、ご家族から訴え等があった場合は、お聞きしたことを上司に早めに連絡をする 		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月スタッフミーティングをしたり、気がついたこと、提案など聞けるように毎日ないよう記録できるノートを用意している。 ・管理者が職員の話聞くようにしている 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・前の月に次の希望休を出し、お互い気持ちよく働くことが出来るようにシフトを組んでいる。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者様とは日々コミュニケーションを深め、不安を持たせないようにしている。 ・ご家族へは、家族会、面会時に職員の紹介と異動の報告をしている。 ・職員同士が協力し、チームワークのよい職場と思う		
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の研修、愛知県下、知多中南部居宅介護サービス連絡会などより通知があり、順次職員へ促している。 ・法人内の勉強会に参加している。 ・講演会の情報を掲示 ・書籍があり見ることがいつでも出来る。 ・希望者を受けれるようにしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者間の交流はない		・人材不足であり、疲れすぎないようにしなければいけない ・他の施設を訪問したりして、運営・ケアの内容といろいろ勉強できる機会を作っていく
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・2～3ヶ月ごとに個人面談を行っている 何か問題があれば、その都度聞いてもらっている。 ・声を掛けたり、不安・不満を言えるような雰囲気作りに心がけている。		・1日の勤務の中で身体・精神が開放される時間、空間を用意したい。 ・休憩室がほしい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・半年に一度自己の評価、分析を行い、職員個々のケアの目標を立てている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・本人と利用前に1度は必ず、面談の時間を設け、利用に際し、不安がなるべく小さくなるように努めている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用される本人とは別にご家族の要望が聞ける面談の時間をとっている。 ・何か不安などがあれば、その都度連絡を下さるようお話し、いつでも対応できる体制をとっている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・法人全体を通し、利用される本人にあったサービスが利用できるようにケアマネや本人、ご家族と相談をしながら、見極めるようにしている</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・本利用の前に1ヶ月間のお試しとしている。本人のみならず、ご家族、施設側と全てが納得した上で、本利用としている。</p>		<p>お試し期間と本利用との間に契約書等は設けておらず、書面上では、お試し期間についても本利用としての契約をしている。目に見える形で、本利用との差を作れるようにしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		<p>・共に支えられる関係を作りたい</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の話しをよく伺うようにしている ・ミーティングや申し送りなどの席で話し合っている。 ・把握に努めている 困難な場合は、ご家族に相談している ・援助計画やマンスリーで本人のあるべき姿を検討中 	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人カルテに資料をファイルし確認できるようになっている ・アセスメント作成時に利用者様やご家族に伺っている。 	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝夕の申し送り時間を取り、心身状況、一日の過ごし方、薬、排泄を把握する。 ・毎日の申し送りで把握している ・カルテへの記載、申し送り等で情報を共有し把握に努めている 	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向を聞いたり、評価表、3ヶ月に一度の援助計画作成とその見直し・ミーティングでの話し合い・気がついた時提案、意見交換し援助計画に反映している。 ・援助計画で、ご家族の協力が必要なときは、相談しお願いしている。 	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月毎の援助計画とその見直しを行い、職員の話し合い・ご家族への承認を実施している ・変化に合わせ新たな内容の計画作成をしている。 ・毎月、援助計画に対して変化生じたのか、必要なプランか、継続していくのか、評価表として記録し、援助計画の見直しの資料としている。 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気がついたときは、個別記録している ・情報が共有している。 ・ミーティング時意見交換し、日々のケア、援助計画の作成に活かしている。 ・評価表を基に実行しており、その都度、見直しをしている ・カルテの記載、申し送りでの情報の共有を行い介護計画の見直しに活かしている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一階にある診療所である医療機関と連携しリハビリテーションの利用をしている。 ・リハビリ・病院受診・往診と要望があれば、必要と思われる時、すぐ支援できる体制である。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない 		ボランティアを受け入れていきたい また、その受け入れ体制も準備したい
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内のサービスを利用している ・シニアフィットネスやリハビリなど 		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、ご家族の希望により母体医療機関からの往診医を主治医としている。 ・病院受診は、家族主体で職員はそのサポートとして行っている。 ・ご本人・ご家族からの希望があれば、協力している。 ・専門医の治療が必要な場合は、ご家族と相談し受診している 		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要と思われる利用者に対して専門医受診を行っている。 ・認知症に関する診断や治療が受けられるよう予約・説明している 		利用者全員に専門医の受診をして職員が医療面からの認知症の知識を得られるようにしたい
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の看護師が身体の様子をみたり、医療面からの指導を行っている。 ・毎日または、随時看護師に利用者様の身体状況を連絡し、指示を仰いでいる。 ・緊急時は、担当の看護師もしくは、母体医療機関の看護師に連絡相談している。 		特変時、夜間時など緊急時の対応を考える
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者により行っている。 		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りについての基本指針が定めてある。 ・ご家族への「意向事前確認書」「看取り介護の同意書」を説明をしている ・ご家族の考え方の把握を行っている。 		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本姿勢について全職員が指示を受けている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・本人の要望や様子などご家族と相談しその都度対応している		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング時、個人情報の徹底について話し合っている。 ・個人情報が流出しないよう心がけている。 ・薬剤情報や個人が特定できるような書類に関しては、シュレッダーによる処理等取扱いに注意を払っている。 ・プライバシー保護の係りがあり、外部へもれないよう情報の処理を行っている。 		終了した情報に関する用紙をシュレッダーにかけて外部へもれないよう取り組んでいる
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムについても自己の時間でメリハリのある生活で、自己で決め出来ることの幅を広げる支援をしている ・本人の力に応じた表出を導けるよう努力している ・なるべく説明し、納得していただいてから行動するようにしている 		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様のペースレベルにあったケアを行っている。 ・状況やレベルに応じた日常生活が出来るように本人の希望を基に進めている ・出来る範囲で無理強いはしないようにしている。 ・それぞれの体調に合わせた支援を行っている ・一人ひとりの生活リズムを把握してペースに合わせた支援をしている 		一人ひとりのリズムを把握、穏やかに過ごせる環境作りを取り組んでいる。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・不定期だがボランティアにて散髪を行っている。 ・ご家族と出掛けられる方もいる いけない方については、職員によるボランティアで行っています。 ・服装・髪型などご本人が意見を出していただけるようならご本人の意見を取り入れている。 		美容に関してお店までいけないためいけるようにしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく食事が出来るように気の合う人と同じテーブルになれるよう配慮している。 ・食事の片付けはお手伝いいただいている ・一緒に作ったり、後片付けも出来る方をお願いしている。 ・各利用者様にあった食事形態を用意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に行える時間を増やしていきたい ・利用者間のトラブルになることが時折あるため、役割分担もできるとよい
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ時間は数種類の飲み物を用意し選んでもらっている。 ・水分、食事の割合を常にチェックし食事が取れないときは、果物をつけ目で見える楽しさ、盛り付け等も考える ・飲み物、おやつ等意見を取り入れて行っている。 ・本人の嗜好に合わせているがお酒やタバコは提供していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・お酒は、昔たしなまれていた方は、見えるものの現在は、飲んでおらず、ニーズを引き出したい
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に声掛け又は、トイレ誘導介助、見守りを行っている。 ・不潔にならないように心掛け、実行している。 ・出来るだけリハビリパンツ・尿取りパット使用を減らすよう心掛けている。 ・昼は、なるべく布パンツを使用し、時間で排泄の介助をするのではなく、習慣を活かし一人ひとりのペースを大切に支援している。 ・排泄表の記入により管理、水分補給、服薬等で気持ちの良い排泄を支援している ・一人ひとりに合った時間の誘導をおこなっている 	<p>一時間毎など一人ひとり異なる時間帯に支援を取り組んでいる</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴剤などを使ったり、会話を楽しむなどして、入浴が楽しくなるようにしている ・毎日入浴される方も見え、2日一度は入浴できるように支援している ・皮膚の観察も行っている ・入浴されない方には、皆さんではないが足浴も行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜の入浴希望もかなえてあげたい
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個室が用意され、各利用者様のペースで休息、就寝されている ・生活のリズムに気をつけ、日中はなるべく起きていただくように声掛けをしている ・昼寝や横になりたい希望あれば、対応しているまた、あまり眠そうだったら、横になれるよう勧める 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の好きなお手伝いをお願いし、手伝ってもらっている ・家事全般において、それぞれ利用者で役割を自らされる。 ・一人ひとりの力にあったレクリエーション参加やお手伝い、買い物への同行などお誘いしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の家事全般を利用者のどなたかが行ってくださるよう取り組んでいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に出掛けた時、財布から支払いをお願いしている。 ・一人ひとりの希望が全て応じきれしていない。 ・買い物時には、職員と共にレジにて利用者本人による支払いを見守っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金が使えるように支援したい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物（1日の中で）月に一度の行事などで外出を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の中で希望のある方は、特に毎日の買い物で行っている取り組みをしている ・行けない方へも外出を支援していきたい ・気分を変えるための外出を考える
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事の中に外出（花見、初詣、買い物）する機会を取り入れている。 ・年に一度ではあるが、家族と相談し行っている ・スペシャルDAYを設け、普段では行けない所ややれないことで各自が希望されることを伺い、希望に添ったプランを実行し、外出支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒に参加できる企画を立てるようになる ・スペシャルDAYは、好評なためこれからも継続していきたい ・毎日の買い物もほぼ全員に声掛けし一緒に出掛けている。 ・年に一度本人の希望にていきたい所へも出掛けている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・電話を掛けたい人には、電話を掛けられるようにしている。 ・利用者様から依頼があったときなど、支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はがき、手紙の代筆を行うことがしていきたい。 ・字を書くことが好きな方には、日々の生活や思いついたことなど書いていただける様ノートを渡している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が楽しめるような接待、空間作りを心掛けている ・毎月でのご家族向けのニュースやお知らせ等で訪問を依頼している 		夜間も訪問も承りたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に身体拘束を行ってはいない ・柵、その他身体拘束を行う場合には、時間帯、場所などの詳細を書面にて承諾を得て、その都度記録をしている。 		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が自由に動き回れる環境を作っているため他人の方の部屋へ入り物の持ち出しがある状況を見て本人・ご家族の了解を経て鍵を掛ける場合がある。 ・日中は、鍵の解放をし、夜間のみ玄関の施錠をしている。 		・他の方の部屋へ入り収集癖についての対策を講じたい
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士、声掛けなどで所在の確認を行っている ・日中は、トイレ誘導と同時に2時間毎又は、一人ひとりのトイレ間隔にあわせての時間に所在確認をし、夜間は、随時巡視により行っている 		・朝に着替え時、離設の危険性が高い方の服の色、形などをチェック表に記入している
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤などの危険なものは、鍵を掛けて保管している 		・利用者同士でも重度の方へ温かい目で見守って、危険なときは、教えてください。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、事故発生の報告、内容がいつでも確認でき、防止策を具体的に申し送りを実施 ・仕事の引継ぎ時の申し送りの徹底などで情報を共有化し事故防止に取り組んでいる。 ・事故報告書の記入を徹底している。 ・転倒に関してはよく動かれる方で歩行がやや困難な方にはヒッププロテクター使用または、見守りにて歩行していただく。 ・行方不明については、マニュアルが作成してある。 ・誤薬の防止のためチェック方を用意し、活用している。 ・与薬責任者が責任を持って最初から最後まで行っている 		<ul style="list-style-type: none"> ・事故がおきてからすぐに対応策を考えそれを実施している
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時のマニュアルを用意してある。 ・職員の連絡網を活用している。 ・救命講習に参加している ・年に何度か対応訓練の研修あり 		<ul style="list-style-type: none"> 全職員対象に現場でよく起きる急変・事故に対して初期対応を看護師の指示の基実践的な訓練などを行いたい ・研修になかなか行けず、訓練を受けたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民がほとんどいない ・協力を得られるような働きかけは行えていない。 ・避難経路を掲示し、年に1～2回の避難訓練を行っている。 ・エレベーターの使用禁止 ・階段による避難方法などの指示を受けた 		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣している施設（デイケア・病院）お互い災害時どのように対応していくのか話し合いたい ・近隣の企業に施設運営など理解をもってもらい、協力を得られようように働きかける。 ・マニュアル作成と避難訓練をしてもらいたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居の契約時、リスクに対して説明している。 ・当施設の理念、ゆったりのんびりその人にあったケアを心掛けている事、生活の場であることを説明している。 ・定期的に行っている家族会で話し合うまたは、問題がおきたときは、随時ご家族に連絡相談を受けている。 ・起こり得るリスクについては、ご家族に説明し対応策を話し合っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書面にて家族への了承を行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルチェックを毎日行うと共にいつもと違う様子が見える時は、記録に残すなどして気をつけている。 ・毎朝のバイタルチェックや食事量チェックをしている。 ・月二回の医師の往診もあり看護師も随時来てくれる。 ・日常で入浴時、就寝時での一人ひとりの体調を確認で早期発見に努め情報は共有し対応につなげている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとり接する時間があるため、変化を読み取り少しでも変化があれば、バイタル測定、医師、看護師へ報告している。 ・法人内で体調変化時24時間素早く対応してくれる。医療面のバックアップを充実していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬している薬剤情報が用意してある わからないときは、看護師・薬剤師に連絡が取れるようになっている。 ・一人ひとりの服薬表またはチェック表など作成、薬剤情報など目を通す。 ・薬剤管理を徹底し、服薬の支援と症状の変化確認に努めている。 ・内服薬のセット内服確認のチェック表があり、目で確認工とで確認のマニュアルがある。 ・薬のチェック表を用い、服薬時には日付・時間帯名前を確認し服薬している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の服薬時一人ひとりのチェック方にチェックしている。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下剤を服用するときは、個々の状態に合わせて量を使っていたい。 ・一人ひとりの排泄表があり毎日チェック、便秘時の対応マニュアルあり、必要時は、医師・看護師の指示を仰いでいる。 ・水分の補給を十分に行っている。 ・食後は、必ずトイレへ誘導、便意のあるような行動表情に気を付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・食事、水分、排泄チェックが一人ひとりに応じ記録している。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後のうがい・ブラッシング、介助が必要であれば介助・見守りを行っている。 ・週に一度に除菌をおこなっている。 ・一人ひとり口腔ケア表があり、毎食後チェックを行い、異常時歯科の受診や往診を対応している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・義歯の合わない方が多々あり、合わないために食事量低下もあるため受診をして頂きたい。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の食事を把握しているので体調不良などで摂れないときは、代わるもの(補助食品や果物等口当たりの良いもの、好きな物)で対応している。 ・食事・水分チェック表があり、毎食時の摂取量を確認、必要に応じ栄養士へ食事形態の相談をしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・その時々に応じ食事形態、食事内容を変更している。
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの徹底に心掛けている また、食前の消毒 ・職員も日常の体調に気配りをする ・マニュアルがあり、職員一人ひとりにどの方法がどんな感染症対応するのか具体的案あり。 		<ul style="list-style-type: none"> ・平常時に他者と変わらずの対応、感染の危険が高まるときの対応を随時申し送りして伝えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しは処分し、曜日毎に使う食器を漂白剤につけるなどして衛生管理を行っている。 ・台所調理用具等衛生管理を行って安全な食材しように努めている 		<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な食材を使い、手洗いの徹底、利用者へも促している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関を使用頻度が低く工夫されている部分がない ・玄関やロビーに花や植物を置き、エレベーター内には来所してくださった方々へのメッセージや案内等の掲示をしている。 ・玄関踊場にソファが用意しており、休息会話がもてる空間がある。 		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の空間を改築、原型を残した部位が使用づらく、利用者からも声が上がっている。 ・室温や採光、照明、音など衛生的環境に十分配慮している 壁には、季節ごとの掲示物や利用者様の作品を飾ったりしている。 		トイレ、カーテン等の工夫はあるが、利用者の声、様子を見ながら居心地よく使用が出来るように工夫をしたい。 ・汚物いれからの臭い、ゴミの臭い、訪問者が不快感を感じないように臭いのもとを素早く撤去消臭に努めたい
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有空間の中では、思い思いに過ごせる様に努めている。 ・自分の定位置を持って生活をしている。 		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に飾り付けしたり、自分の好みのものを置いたりしている。 ・居室内にどのようなものが置いてあるか職員が把握するようにしている。 ・片づけが出来なかったり、不衛生にならないように注意を払い介助を行っている。 ・入居前にご本人が使っておられた身の回りのもの等を持ち込んでいただき、出来るだけ入居前と変わらない生活が出来るように心掛けている。 ・ご家族の写真等を飾り居心地よく暮らせるように工夫している。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・温度設定も利用者様にあわせ個々の部屋はもちろんのこと、各スペースに空調設備を整えた。		・空調の具合が良くないものに対する対応を早くしてほしい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・いまだに段差の解消が解決できていない部分がある。 ・安全な中で機能維持と改善が見られるような生活を工夫している。 ・リビング、廊下に手すりが設置してある。 ・自主的に歩行、体を動かしているとき休憩できるソファ、畳使用のベンチが用意されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・自由にマイペースで生活しており安全に暮らせるようにスペース作りをしている。		毎日変化の広告、その対応を話し合っている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・廊下を使っでの歩行訓練や外周の散歩などを行っている。 ・利用できる環境整備が出来ていない屋上を活用したいのですが、移動は階段、大きな段差、滑りやすい活用できる利用者様は数名となっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在の場所へ移転以降、アセスメントやケアプランの策定・評価には、十分に力をいれている。アセスメントでは、センター方式を用いアセスメントチーム(4名)からあらゆる角度で利用者様の立場に立ったプランを作れるようにしており、評価では一ヶ月毎に定期的に取り組み、柔軟な対応ができるようにしている。ご家族との交流においては、3ヶ月に一度家族懇談会を開き、職員とご家族の交流を経て、現在では、ご家族同士の交流へと転換しているところである。基本的な介護面としては、3大介護を重点的に行っている。排泄では、2時間毎の誘導や1時間毎の誘導など 入浴では、1日おきの人から毎日の人と、食事は、食事形態も柔軟に対応できるなど 一人ひとりの利用者様に合った方法で 個別的に取り組んでいる。工業地帯という立地条件ではあるが、隣のショッピングセンターを活かし、ほぼ毎日散歩しつつ買い物に出掛けられる特色も出せている。